

2021年6月29日

ミス・パリ エステティック専門学校名古屋校 学校関係者評価報告書

ミス・パリ・ビューティ専門学校

校長 下村 朱美

学校法人ミスパリ学園 ミス・パリ エステティック専門学校名古屋校 学校関係者評価委員会は2020年度（令和2年度）自己評価報告書に基づいて学校関係者評価を実施致しましたので、以下のとおり報告致します。

1. 開催日時：2021年6月29日 10：00～12：00
2. 場 所：ミス・パリ エステティック専門学校名古屋校
3. 参加者

学校関係者評価委員

進藤 大	(株式会社sline (美容室サンベイス) 代表取締役) (日本美容業生活衛生同業組合連合会 渋谷区副支部長)
宮腰 大司	(有限会社ヘアージェスト 代表取締役)
平山 浩篤	(株式会社シェイプアップハウス 取締役) (学校法人ミスパリ学園評議員)
杉原 昭二	(学校法人ミスパリ学園理事、評議員)
須賀谷 映子	(NPO法人日本スパ・ウェルネス協会 教育委員長) (学校法人ミスパリ学園評議員)
越川 治枝	(株式会社シェイプアップハウス 教育部 課長)

事務局	杉山 枝里 (ミス・パリ エステティック専門学校名古屋校 副校長)
	川原田 恵美 (ミス・パリ エステティック専門学校名古屋校 教育課)

陪 席	東 千晶 (株式会社シェイプアップハウス 人事部 部長)
	大石 将人 (株式会社ミス・パリ お客様相談室 室長)
	中澤 健太郎 (ミス・パリ・ビューティ専門学校 教育課 課長)
	加納 倫一 (ミス・パリ・ビューティ専門学校 教育課 課長)

4. 基準項目ごとの学校関係者評価・意見

①学生アンケートにおける改善点

【現状】

在校生を対象に年間2回、無記名による『授業アンケート』を実施している。各クラスアンケートの平均値は85%以上となっており、学生の授業に対する満足度は概ね得られていると判断している。

しかし、クラス間、学生間で差があることから、教え方、学生の理解度の確認などについて研修を行うことにより各講師の教育に対する均一化を図る必要がある。

授業アンケートは、自由記入欄を設けているが無記名であることから、忌憚のない意見も多く挙げられていた。課題と捉えたものとして、「技術チェックをもっと厳しくした方が良い。」「細かい手直しを日頃の技術練習で指摘してもらいたい。」があり、対策として技術チェックの時期を変更し、チェック後の手直しの時間を設けるなど、随時次年度の授業の改善点として講師間で話し合い、共通認識を持ち指導にあたっている。

②評価点の理由

【現状】

〈自己評価が前年度と比べて上がった項目〉

今年度（2020年）からの取り組みである「学年目標計画表」を活用し、定期的に学年担当者全員で学生指導に関する打合せを行った結果、講師自身の自己認識につながり、学生教育に関連する項目において自己評価が上がった結果となった。また、学生広報部の活躍により、SNS（Instagram、ブログ）の定期的なアップ、更新を行うことができていることに加え、学生発案による部活動（園芸部）が発足し、咲かせた花をオープンキャンパスで飾るなど学生の自主性の高まり、達成満足度にも貢献している。

〈自己評価が前年度と比べて下がった項目〉

学校運営、教育活動に関する項目においては、計画表の作成・ミーティング実施等の対策を講じているが、自己評価アンケートの各項目を評価する際、講師自身が学校運営、教育活動などに関わっていることを理解していないことが分かった。また、学修成果に関する項目においては、進級率・卒業率共に目標達成できていなかったことから自己評価の低下につながった。なお、インターンシップなどの外部機関と関係する項目については、新型コロナウイルス感染拡大により、実施が困難となったことに起因している。

【今年度の課題】

学校での日々の取り組みが、学生指導のみならず学校運営などにつながるイメージが持てるように、講師研修会や職員会議にて周知を図る。また、講師レベルを向上させるため、外部研修にも積極的に参加し、その内容について全体へ共有化することにより、レベルアップを図っていく。進級率・卒業率の向上に関しては、授業内容の改善や指導の見直しを行うなど、修学の途中で学生が諦めない環境づくりを行っていく。

③ 重点的に取り組む施策

1) 授業の満足度を上げる

1年生のクラス決定方法を高校在学中の調査書のデータを中心にした前年度のクラス分け方法から、調査書のデータに加えイベント参加状況や学生募集からの情報をもとに編成するように変更し、技術

の習得率や進級率などのクラス間の偏りがなくなるよう実施した。また、技術チェックの時期を早めることで授業内での手直しや、再チェックなどで技術の仕上がりに注力し、習得レベルを確認しながら、更に高いレベルの技術力を身に付けられるようにしていく。

2) 進級率・卒業率の向上を目指し、中途退学者を減らす

2者、3者面談の時期を早めに設定するなど、学生の変化に速やかに対応ができるように取り組んでいく。また、1年生に関しては短期間で精神的に思い悩んでしまう傾向がみられるため、年間3回の面談計画から年間4回の面談に計画を変更し、学生の変化を早期に把握できるような仕組みづくりを行う。

3) 講師レベルの向上

講師研修会では、講師間での技術の統一、学生からの質問への回答など講師間で差異が生じないように知識の共有化を図る。授業の組み立てに関しては、起こり得る問題や課題をベースに模擬授業を行い、より魅力的な授業の構築を目指した『授業力をつける研修』を取り入れていく。今後、関連する外部研修にも積極的に参加し、共有することで学生指導や授業運営のレベルアップを図る。

委員より

教育活動において『学生広報部』『園芸部』の活動等は、授業以外での学生自身の成長に繋がることから、今後も継続実施をお願いしたい。課題としては、前年度の卒業率が低い結果となったことに対し、授業アンケートを活用した学生の満足度におけるクラス差について分析がなされていることや、名古屋校の紹介制度を利用した入学者数が他校と比較して多いことから、学校に満足している学生も多数いることが理解できる。一方で、学校に満足できず退学になっている学生も一定数いることから、学生満足度の差を埋めるための施策に対する効果検証を早期に行って頂きたい。早期の振り返りを行うことで学校教育に対する学生満足度の差をなくし、学校全体での底上げを期待したい。

評価項目については、講師・学生の学校運営に対する理解の項目において、2年間評価が変わっていないことがわかる。自己評価実施方法の改善点等の対策を実施することで、評価は上がってくるとは期待できるが、毎年学校運営について講師や学生へどのように伝えていくのかを今後の課題として取り組んでいただきたい。

5. 全体総括

今回の学校関係者評価委員会では、①学生アンケート結果において改善すべき点、②評価項目の上だった項目、下がった項目の理由、③今年度重点的に取り組む施策について分析、結果報告を行ったことで現状考えられる問題点を抽出し、改善点を明確にすることができた。

自己評価報告内容や、評価委員からのアドバイスを職員に共有し、学生がより学びやすい環境づくりに向け職員全員で課題に取り組んでいく。

以上